

# 特報 □ 論説 □ 聞く | 語る | 発地域 | 駆け

障害者政策もやはりこの社会の影響を受けており、その点では「優生思想」「現代社会」「障害者政策」という観点から議論を深めていく。

この手紙は優生思想、あるいは優越的な感覚に基づく根柢で書かれている。私にはナチス・ドイツによる障害者抹殺政策「T4作戦」が重なった。

今回の事件は極めて特殊で異常な事件だが、それだけではなく付られない。特殊性は捜査機関や法廷で心理学や精神医学も動員して真相が查明されるだろう。特殊たどりうだけではなく付られない問題は社会の側から考えなければならぬ。優生思想に基づき事件が起こされたのならその温床、遠因、背景は現代社会に潜んでいる。生産性や経済性、効率、速さが人を図る尺度になつておらず、容疑者もそうした社会に生きてきた以上、影響はあつたと思う。単独犯ではあるが、強大な共犯者に後押しされた単独犯という言い方もできる。

事件後、全国の仲間から「怖い」という言が届く。それは三つの怖さだ。まず手口があまりに殘忍。辞めていたとはいえ、自分たちを最も守ってくれる職員が容疑者だったとしても、そして容疑者が犯行前に衆院議長に宛てた手紙だ。重度障害者は生きていても仕方がない、安樂死させた方がよいと主張している。この三つの怖さにより、すべての障害者は自分に刃を向けている感覚を持つことになった。

相模原市緑区の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者19人が刺殺され、27人が重軽傷を負った事件から2カ月余りたつた28日、事件をどう捉え、何を教訓とするべきかを考える討論会が参院議員会館で開かれた。登壇した障害者、家族、支援者、有識者ら発言から戦後最悪レベルの事件と向き合つ視点を考えたい。初回は自身も複数障害者である、日本障害者協議会の藤井克徳代表のスピーチを紹介する。

(石橋 学)

## 討論会(上)

必要がある。

### ■日本社会の縮図

今回の事件は日本社会の投影であり、日本の障害者問題の縮図を見るひともできる。

神奈川県警は被害者氏名を公表していない。社会からの歓迎があり「二重の殺人」としてから。家族には複雑な思いがあろう。県警は遺族が匿名発表を望んでいるという。そうであるなら家族に隠されている社会に責任があり、やはり社会が黙殺しているといつことになる。

優生思想は1800年代半ばの進化論に端を発する優生学が始まわり、極に達したのがヒトラー政権での障害者虐殺だった。ではこの国ではどうか。1960年から74年にかけ兵庫県では「不幸な子の生まれないための県民運動」が行われた。県民を挙げて障害者の子どもを産ませない運動だった。

2009年には鹿児島県阿久根市の竹原信一市長(当時)がブログに「高度医療が障害者を生き残らせている」と書き、元愛知県知事の神田真秋氏は同年、新人職員の入庁式での訓示で、障害のある

## 時代の体 障害者殺傷事件考

人たちについて「弱い遺伝子、悪い遺伝子が出た方」と発言している。石原慎太郎氏も都知事時代、重度心身障害者施設を視察し、「ああいう人ってのは人格あるのかね」と言い、茨城県教育委員の長谷川智恵子氏は教育施策を話し合う会議で「妊娠初期にもつじで障害の有無が分かるようにできないのか」「茨城県では減らしていく方向になつたらいい」と発言している。つまり一貫してこの社会にはこうした考えが潜んでいっている。非常に根深く、決して特異な話ではなく、ある意味では蔓延している。

この問題は政治の表舞台できちんと議論をしてもらわ必要がある。行政の中心課題にしてもらわ必要がある。11年7月、銃の乱射などで7人が殺された事件がノルウェーであつた。かの国では国を挙げて事件を総括し再発防止のために社会の基礎をどう築いてい

ることを抜きに議論されており、あまりに根本を欠いているといふべきであるを得ない。

そこからは社会防衛策の強化

か出てこない。行政者、為政者は

そのことを注意してほしい。精神

科病床数が一気に増えた1964

日本障害者協議会 藤井 克徳 代表



事件に抱いた「怖さ」を語る藤井代表 =28日、参院議員会館

26日の安倍晋三首相の所信表明演説はオデジヤネイロ五輪の話題から始まり、台風10号の被害者に哀悼の意が表されたが、戦後最大の殺傷事件についてはひと言も触れていない。大変もの悲しい気持ちを持つのは私だけではないと思う。

行政の検証委員会もあまり対症療法治的だ。確かに精神障害者政策は遅れがあり、その一つとして入院制度が検討されるのはよじだる。非常に根深く、決して特異な話ではなく、ある意味では蔓延している。

この問題は政治の表舞台できちんと議論をしてもらわ必要がある。行政の中心課題にしてもらわ必要がある。11年7月、銃の乱射などで7人が殺された事件がノル

ウェーであつた。かの国では国を

挙げて事件を総括し再発防止の

ために社会の基礎をどう築いてい

けているのかを論じ合つた。年にライシャワー駐米大使が刺傷された事件、心神喪失者医療制度で大きな後遺をみた2001年の大阪・池田小学校殺害事件と同じ轍を踏んではいけない。

### ■大きな手がかり

私たちには大きな手がかりがある。日本も14年に批准した障害者権利条約だ。条約に今度の事件を重ねると見てくるものがたくさんある。

第8条では「あらゆる活動分野における障害者に対する定型化された観念、偏見及び有害な慣行慣習」を戒めている。戦争主体には総理大臣も行政者も含まれる。そして相手に戦うだけでなく、私たちの中に潜む内なる差別意識や排外的な考え方とも戦いましょうといったところである。

第17条には「すべての障害者は他の者との平等を基礎として、その本身がそのままの状態で尊重される権利を有する」と書かれていている。社会に合わせようとか、無理にはい上がるたりしかつてよい、そして社会はその人のありのままの状態を受け入れましょう、といつてはいる。日本国憲法13条にも「すべて国民は個人として尊重される」とある。この「個人として」「そのまゝの状態で」という価値観を原点にするべきではないか。

やまゆり園の仲間たちの死は何を私たちに問いかけてしているのか。分け隔てのない社会をつくってください。私たちの死を無駄にしないでください。すべての人が包容されたインクルーシブな社会をつくるための新しい議論の出発にしてください。そして、社会の標準値を取り戻してほしいと言つていいように思える。いつの間にか屈強な男性を中心とした社会に変わってしまった日本社会にあつてもう一度、障害者や高齢者の立場から標準値を取り戻していく「ほしい」という叫び声が私には聞こえる。

# 特報 □ 論説 □ 論議 □ 問う

埼玉県内で入所施設の運営などを手掛ける社会福祉法人みぬま福祉会の理事新井たかねさん(70)の長女(44)は、重度の心身障害がある。相模原の障害者施設殺傷事件から2カ月余、自身の内なる優生思想と向き合つ日々だったと打ち明けた。

(石橋 学)

## 討論会中

事件を知り、娘と同じような障害を持つ人たちが声も上げられず命を奪われた状況を想像し、胸がつぶれる思いでした。容疑者が元職員で、障害のある人たちの命と存在を否定する言動をしていたことを知った時は、憤りで体が震えました。

その言動の背景に優生思想があると言われていますが、この日を境に私自身はどうであつたのかといふことに向き合ってきました。娘の障害を受け入れるまでには簡単ではない道のりがありました。生後5カ月で脳性まひと診断され、障害を持ちながら幸せに生きていけるだろうかと、娘に謝りながらの日々でした。

克服への最初の一歩は娘が生まれる前、木村浩平さんの本に出合った感銘を受けていたことになります。わずかに動く左足で絵を描き、短歌を詠み、子育てをする。その生き方を否定するのかと、私自身に問いました。

もう一步は養護学校義務教育化の4年前、重症心身障害児を守る会に養護学校準備室の先生が来て、皆さんのお子さんも入学できるよう一緒に声を上げました。どう呼び掛けたかです。

あるお母さんは「うちの子は教育を受けても社会の役に立つとは思えない」と言いました。それに対して先生は「どんなに障害が重くとも社会に役立っています。生きている。それだけで周囲の人々に自分の生き方や社会の在り方を考えさせてくれる大切な存在です」と話しました。こんな価値観があるのだと衝撃を受け、その言葉に

ずっと支えられてきました。

もう一步は、全国障害者問題研究会の埼玉大会に3歳だった娘を連れて参加したときです。「発達は無限」という考え方方は娘にも当てはまるのでしょうか」と話を震わせながら質問しました。多くの方から子どもの発達の様子が語られましたが、私は「娘には当てはまらない」と言ってしまいました。発達すると言じるよりも、とにかく集団の場に入れなさい、生活リズムができる、健康につながり、学びます。発達につながりますよ」と言われ、その言葉に背中を押されました。

就学前の母子通園施設に通い、熱く語る先生方に教育を受け、娘らしい人生をと願い、惜しみない支援を寄せてくれる職員の皆さん

に出会い、障害者自立支援法違反訴訟の原告として、この時代に生きる者の役割を担えたことも大きなことでした。

### ■ 尊厳を守る責務

娘と私には大切な出会いがあり、学ぶ機会に恵まれ、育ち合い、手をつなぎ合う仲間たちに恵まれ、心の奥底にあつた優生思想的な考え方を克服してきたのです。

## 時代の正体

障害者殺傷事件考

今回の事件を通して気付かされました。社会もまた、人権や尊厳を最大限尊重し、一人一人の人生を豊かにと願う支援が重ねられ、そこには豊かな人間関係、信頼関係が築かれています。

近ごろ、障害者や高齢者、女性や子どもたちに対する政治家の人の権利侵害・差別発言が続いています。それを許している社会の風潮から、容疑者は学んでしまつたのではないかと想えてなりません。

政府もまた自立・自己責任を強調し、社会的に困難を抱えている人たちに対する差別と偏見、排除に拍車を掛けられないでしょ

うか。命と人間の尊厳を守ること

は、政治と行政の最も根本的な責務です。

私は今回の事件で、入所施設の問題を指摘する意見が出てらることにも心を痛めています。重症心身障害者の医療と暮らしに尽力してきました小児科医の高谷清先生が「施設で暮らすのか、地域で暮らすのかが問題なのではなく、周囲どれだけ豊かなつながりをつくられるかが大切だ」と言われ、生活単位を小規模にして家庭的にすればよいのですと発言されていました。

娘は、やがていつかはこうに住みたいと願いや知恵を集

めてつくり上げた入所施設で暮らしています。人権を最大限尊重し、一人一人の人生を豊かにと願う支援が重ねられ、そこには豊かな人間関係、信頼関係が築かれています。娘は最近呼吸に困難を抱え、呼吸補助装置を着けてリハビリに取り組むようになりました。意思表示が困難な障害の重い仲間たちが大勢いる中で、看護師から娘の状態と装置についての説明がありました。説明が終わるところの女性が娘の傍らまで懸命に車いすを動かし、手を握って泣くのです。いかめしい装置に驚いたのですが、「心配してくれたね、楽になるんだから安心して」と語すと納得してくれました。

みんなで見守りますからね」と伝えくれるべく、私の手に沿うように書いてくれる人がいました。この人が、娘の家族はコトにいろいろ思つるがございました。家族を自分でつくるのが難しい娘たちとの大きな違いに愕然とします。政治や行政の不作為によって悲劇が起きているのだからしっかりと向き合つことが必要です。

### ■ 「人生に疲れた」

障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会(障全協)が昨年行つ

みぬま福祉会 新井たかね 理事



内なる優生思想と向き合った日々を振り返る  
新井さん =28日、参院議員会館

た障害者の健康に関する実態調査では、主たる介護者の91%が母親でした。自由記述欄には「不安な毎日」「先を考える心配」と「不安」「心配」の文字がたくさん並んでいました。

福島・会津の方は「自宅から通える学校がなく、親仲間と学校づくり運動卒業すれば作業所運営、制度が変わればNPOの立ち上げ70代、80代になり、自分に何かあつたら不安な毎日で、グループホームが夢だが、資金のことを考えると夢で終わりそう。こんなに頑張ってても安心できない毎日なんでおかしいです」と書かれていました。80代で臨われる方は筆ペンでひと言、「人生に疲れた」と書いていました。

埼玉県の入所待機者は1400人になります。私のすぐ近くで母親が命を絶つ事件が続いています。同じ時代に生まれながら、娘たちとの大きな違いに愕然とします。政治や行政の不作為によって悲劇が起きているのだからしっかりと向き合つことが必要です。

どんなに障害が重くても生まれ育った地域で安心して暮らしえられる設備と人材の整った入所施設の整備は、緊急の課題です。施設から地域へ出て、命懸けで地域生活を切り開いて下された皆さんへの努力には心から敬意を払います。そして、その深い思いにも共感しています。

一方、意思表示が難しい、自分の暮らしをプログラムするといふ難しい娘たちの暮らしのありようについても、この機会に共有していただきたいと切望します。日本障害者協議会は2013年、障害者の入所施設改革に関する提言をまとめました。提言に基づき閉鎖的で管理的、人権がなじみにくいとしている入所施設の改革・改善にも早急に取り組まれることを、より願っています。

# 連載 | 追う | 地域発 | 語る | 間う | 論説 | 特報

すぐにもががえてきたのは昨年7月に訪れたナチスドイツでT4作戦が行われたハッマー施設で受けた衝撃です。NDS・スタジアム日本障害者協議会の藤井克徳代表の現地取材に同行したものですが、ハッマーは6カ所あった障害者専用殺戮施設のうち、当時の状態を現存する唯一のところです。シャワー室を見せかけた地下のガス室に続く17段の階段に立つたとき、「どんなに障害の重い人でもその異様でただならぬ雰囲気を感じました。なぜかと聞いたら、この施設は「生きるに値しない命はあわざりの対象になるならば、その命に終止符を打つ」というのが人間の慈悲にかなうという考え方がありました。人間を障害のあるなしや人権などを基準にして優劣をつけ、障害のある人をコストのかかる社会のお荷物として見下していました。

私自身も障害のある人が殺戮のターゲットにされ、障害者はいかなければ生き残らなければ生き残るのです。そこで私はT4作戦から70年以上もたつ日本でなすことのやうな事件が引き起こされてしまったのか、決して特異な事件であるといつだ

事件に怖い、怖くてだまらない一呼吸置いてやつて口にしたり、みんなと話がしたいと言つたりしていります。一方、毎朝真っ先に「きのうのニュースは何々だったよ」と職員に話す人が事件にまつたく触れなかつたり、事件を知つていても「分からない」としか言葉にしない人もいる。

精神科入院歴のある人や生活保護を利用されている人たちは、自分たちが社会から見られていて、心にやだをしてしまっている状態で、障害のある人たちが事件から受けたショックの大きさ、傷の大きさを日々強く感じています。

この間、この事件をどう受け止めめたか、どう向むけていけばよいのか、いろんな人たちと話し合つてきました。障害者支援の介護、看護師に携わつてゐる人たちの中に

さじたま市でグループホームなどを運営する社会福祉法人鴻沼福祉社会常務理事の斎藤なを子さんは相模原の障害者施設殺傷事件の容疑者が元職員であつたことにわななき、一方で思ひ巡ります。障害者支援に関する制度や政策に事件の遠因があるのではないかつまり普普通的問題を「」の圓は抱えてゐるのではないか、とい。(石橋 学)

## 討論会 下

障害のある仲間の多くはこの事件に怖い、怖くてだまらない一呼吸置いてやつて口にしたり、みんなと話がしたいと言つたりしていります。一方、毎朝真っ先に「きのうのニュースは何々だったよ」と職員に話す人が事件にまつたく触れなかつたり、事件を知つていても「分からない」としか言葉にしない人もいる。

多くの医師や看護師、介護士たちがこの殺戮行為に加担し、次第にエスカレートしていくのも衝撃でした。T4作戦のむろでは生きるに値しない命はあわざりの対象になるならば、その命に終止符を打つといふのが人間の慈悲にかなうといふ考え方がありました。人間を障害のあるなしや人権などを基準にして優劣をつけ、障

害のある人をコストのかかる社会のお荷物として見下しています。

今回の事件がこうした考え方と相遇してしまったのにしつかりと目を向けていかなければならぬと思います。

### ■存在する不安

そしてT4作戦から70年以上もたつ日本でなすことのやうな事件が引き起こされてしまつたのか、決して特異な事件であるといつだ

## 時代の正体

### 障害者殺傷事件考

けでは済まされない、根深い問題が横たわつていると感じます。

この間、この事件をどう受け止めめたか、どう向むけていけばよいのか、いろんな人たちと話し合つてきました。障害者支援の介護、看護師に携わつてゐる人たちの中にあつても、容疑者の気持ちが分かるくもなし、似たようなことがほかでもまた起つりますのではなく、うちは100パーセント丈夫と言える自信がなじみ違う不安な気持ちが少なからずある、といつこが率直な事実です。

現場にいのうな不安感をもたらす背景には、制度の問題が大きくあると感じています。若い施設職員から、利用者のAさんが休むひとときの作業がはからなくて困つたなどと思つたが、Bさんが休んでそのままは感じなくなつていふといつ発言がありました。大型の台風で施設を臨時休業せざるを得なくなり、これで何十万円の施設の減収がこつこつ思つてしまつて、性や経験を培つてらいいながらも施設長さんも辛いです。

工賃向上や就職率を上げるといふが至る命令として優先され、利用者を生産性の観点から捉えてしまつたが、知らず知らずのうちに若じ職員に染みつてしまつた。施設長は利用者の安全とお金とを一瞬でもしてやぶんだかけてしまう。そのおかげで目標工賃の達成や就職率を上げなければ加算が取れなかつたり、日払い方式などの成果主義に基づく報酬制度になつてからするもどう問題があると感じます。

### ■制度のひずみ

この10年間ほどで障害者施設事業では非正規職員や非常勤職員の比率が一気に高まり、常態化しました。一人の職員を0・5人分、0・3人分とカウントして合わせて一人とみなすところ常勤換算制度によつてです。このうな効率的な発想のむろでは、職員が孤立せずにお互いに高めあいながら専門性や経験を培つてらいいながらも施設長さんも辛いです。

障害のある人への支援に関する制度や政策の考え方の基調に生産性や効率性が重視されている。成果主義や競争原理がベースになつて、今回この事件を通じて現場から出されている不安感につながつて、このだけ思ひます。そして制度そのものが障害のある人々の支援を軽んじ、見下してゐるもつに思ひません。

今回の事件の影響として懸念されることがあります。一つ申し上げます。一つは、それでなくても身分や待遇が低い中で苦労している人材確保の苦しさに、一層の拍車がかかるのではなくかといつります。かつては、つい先日、私たちが行政の介入で進めていたグループホームの候補地が近隣から反対の声が上がりつづれた事実があるといつことです。真相は分かりませんが、この時期にあつて事件との関係性を考へざるを得ませんでした。

さうのうな討論の機会を今後も継続していひながらとても大切だと思います。同時に、政府が国会を挙げ、障害のある人たちの人としての尊厳と権利を守る観点から制度や施策の思い切った拡充を図つてもらつが求められています。それがしてくられた仲間の皆さんとの想いに真に応えていくことをがんばります。

◆T4作戦 優生思想に基づき障害者を「生きるに値しない生命」とみなし「安楽死」の名の下にナチスドイツが組織的に行つた大量虐殺。1939年に始まり病院や専門施設のガス室で窒息させたり薬物を注射したりして殺される。犠牲者は20万人以上といわれます。その後にアウェンツビツツを行われたユダヤ人大量虐殺の手帳考案された。

# 景気と落ち込まず



障害者施設の現状を語る  
斎藤さん  
=28日、参院議員会館